



# 報 告 書

大工研報第 723 号

依 頼 者	所 在 地 または住所	大阪市住吉区南住吉1丁目17番5号
	企 業 名 または氏名	株式会社ユーケケミカル 様
提出試料名	Gespa Lot. No. 08071409	
依 頼 事 項	殺菌力	

平成 20 年 7 月 14 日付 第 200533 号で依頼のあった件について  
提出試料の試験結果を次のとおり報告します。

## 1. 提出試料

Gespa Lot. No. 08071409 (名称は依頼者の申し出による) 1種。

依頼者より提出されたサンプルは液状で、試験には原液に3% (w/v) となるように食塩を添加した溶液を使用した。

## 2. 試験方法

5mlの普通ブイヨン培地(栄研化学(株))に食塩を添加した培地(食塩濃度3%となるように添加)で腸炎ビブリオ(*Vibrio parahaemolyticus* IFO 12711)を27℃で約36時間振盪培養後、1mLを分取し9000rpmで遠心分離した。上澄を取り除き、沈殿を滅菌した食塩水12mL(3% NaCl)に懸濁した。この菌懸濁液0.05mLをプラスチック容器に入れた試料(4.95mL)に接種した後、ふたをして30℃に放置した。1分後に、この菌懸濁液0.05mLを4.95mLのSCDLP培地(日本製薬(株))に食塩を添加した培地(食塩濃度3%となるように添加)に回収し、滅菌した食塩水(0.3% NaCl)で10倍ずつ4段階希釈を行い、これら菌懸濁液1mL中の生菌数を測定した。なお、接種時の生菌数は試料の代わりに滅菌した食塩水(3% NaCl)を用い同様の操作を行い測定した。生菌数の測定は衛生試験法・注解(2005) 1.2.1.1細菌一般試験法 3)菌数測定 (1)混釈平板培養法(p.59)を参考にして行った。ただし、微生物の培養にはSCDLP寒天培地「ダイゴ」(日本製薬(株))に食塩を添加した培地(食塩濃度3%となるように添加)を用い、27℃で48時間培養した。

(次ページに続く)

平成 20 年 8 月 6 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理 事 長 島 田 裕 司



### 3. 試験結果

試験菌名	提出試料名	測定	生菌数*(cfu/mL)**
腸炎ビブリオ	Gespa Lot. No. 08071409	接種1分後	検出されず
	対照	接種時	$6.1 \times 10^6$

\* ) 生菌数は、試料中の生菌数濃度に換算した。また、シャーレ上に30以上のコロニーが認められた場合に計測した。この場合、検出限界は $3.0 \times 10^3$  cfu/mLとなる。

\*\* ) cfu : コロニー形成単位

—以 上—